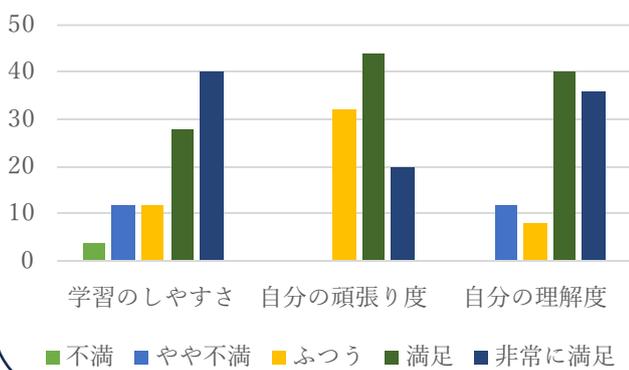


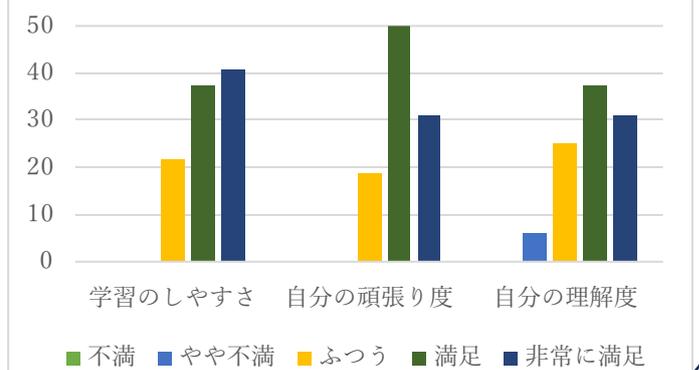
## 児童へのアンケート結果から

- 児童に「自ら学ぶ学習方法」について5月と11月の調査結果について考察した結果、以下のように分析した。
- 「学習のしやすさ」では不満を感じる児童が減少した。自分で学習を進めることの良さを感じている児童数が増えた。
  - 「取組み度」については、どの教科、どの単元でも主体的に学ぶ学習方法が良いのかということ、児童の中にはやりづらさがあるといった結果となった。やはり、教科や内容によって児童が学習に取り組みやすい学習活動とそうでない学習活動があると分析した。
  - 「学習の理解度」では満足と感じる児童数が減少した。これは児童のメタ認知が進んだことによる「向上心の表れ」と分析した。

5月 学習方法の満足度



11月 学習方法の満足度



質問項目	5月	11月
自分のペースで取組めた。	84%	92.6%
やりたい学習に取組めた。	76%	62.5%
集中して学習に取組めた。	56%	56.3%
友達と学習を進められた。	68%	71.9%
様々な方法で学習を進められた。	32%	46.9%
たくさんの課題に取組めた。	44%	56.8%
自分の課題が分かった。	72%	68.8%

児童が学習に対する取り組み方や進め方については、多くの質問項目を設け、年間2回アンケートを実施し、集計分析した。その結果、自分のペースで学びを楽しんで進めることができるようになってきている。ただ、友達との交流で、学びを深く振り返ることにより、自身の課題が明確になったため、自己評価が下がる結果となった。今後、これらの変容が、教員の授業改善によるものかは、次年度以降の研究の取組によって分析していく必要がある。

## 今年度の成果と改善点

### 【成果】

今年度の研究授業や授業実践から「個別最適な学び」を実現するためには、以下の四点をおさせることが必要であるとわかった。

- (1) 児童の実態と目指す姿を明確にもつこと
- (2) 興味・関心を引き出す導入、必要感のあるゴールを設定すること
- (3) 教科や領域によって効果的な学習方法を見つけること
- (4) 目的が明確な振り返りを行うこと

### 【今後に向けた授業づくりの重要ポイント】

- (1) 教師が児童の実態を適切に把握することが必要不可欠である。
- (2) 興味・関心を引き出す導入、必要感のあるゴールを設定するためには、教師がより教科の専門性を高めていく必要がある。
- (3) 一斉指導の良さも個別の指導の良さも、それぞれにある。今後も教材の特性や指導内容等を的確にとらえ、「児童の実態×教材×手立て」をおさえた単元全体を貫く授業デザインを実施していく。
- (4) 児童は、自己評価と相互評価により、客観的に自分の学びの状況を正しく知ることができる。指導と評価の一体化を意識し、振り返りの方法、時間、程度等の開発を推進する。
- (5) ワークシートや学習カードは、児童自らが次の学びにつなげられるものなのか、児童の考えや他の考えを整理、確認、深める等の観点を明確にし、かつ効率よく取り組めるものを目指す。